

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572110104		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームたしろ ユニットふきのとう		
所在地	秋田県大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

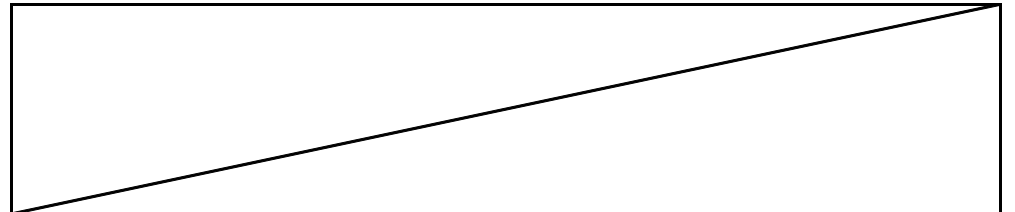
【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年度の事業計画は①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営み、利用者の声が反映されるよう創意工夫し認知症ケアの充実を図る。②広報誌「かわら版」の発行、家族・ボランティア交流、保育園児との交流を通じ、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進委員会」の設置により、家族・地域・行政等の委員の要望・意見・情報提供等により、事業所の更なる良好・健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保・消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤病気等の早期発見、早期対応に努めて健康的な生活の継続を図る。また、感染予防(インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス)等には十分留意し、施設内に持ち込まないように職員間で周知し、感染予防に努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

【ユニットふきのとう】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所貼り、朝のミーティング時等日頃から職員全員で周知して、家庭的な雰囲気の中で生活している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中の為行き来はないが、外に出て保育園児の遊んでいる姿や畑でイモ掘りをしている様子を見学し楽しんでいる。また、ボランティアの受け入れや地域との交流はコロナの影響で実践できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議等で地域代表の方を通し、地域の方達に伝えて繋がりを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険の変更やグループホーム内での取り組み等、写真を入れて見て頂いたり、ヒヤリハット・事故の報告等質問や意見を受け、互いに意見交換を行いサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加だけではなく、何かあれば直ぐに連絡を入れ、相談を行うことで協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束について勉強会を開き、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。玄関の施錠はせず、誰もが自由に出入り出来る状況である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を行い、全職員に周知して職員間で声を掛け合い、虐待を出さない雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅学習会に参加し、制度への理解をし、入居者様の尊厳を守れるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時に重要事項説明書を十分に説明し、入居者様やご家族に不安・疑問を尋ね、納得がえられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や入居者様が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、面会時や運営推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で施設長・施設長補佐・主任を交え、介護職員の意見を聞いて良いサービスに繋げており、年1回施設長との面談もあり、意見や提案を話す機会もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価を基準に勤務実績や日々の努力を評価し、年1回施設長との面談により個人的な希望なども話し、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し外部研修に参加し、研修で得た知識や情報を復命書により他職員へも伝え、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、会う機会はないが電話でのやりとりを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様との信頼関係を築くために本人の話しに耳を傾けながら、不安や困っている事を聞いて安心して頂けるよう寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、ご家族様が今何に困っているのか話しを十分に聞き、相談し合い、安心して頂けるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは共同生活の場であり、職員は家族の一員という事を念頭に、本人が出来ることは見守り、出来ない部分は一緒に行うことで、一緒に生活している関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のホームでの様子を手紙で近況報告し、何か合ったときはご家族様の協力を得ながら共にサポート出来る様に支援を行っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会も思うように出来ない為、現在は馴染みの方の手紙や電話で話しが出来るように支援に努めている。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格に合わせ座る席に配慮したり、孤立しやすい方には職員が関わり他入居者様との交流が出来るように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了しても必要に応じ、相談や支援を行っている。しかし、大体の方が退所後はご家族様との関係は無くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、希望や意向を聞き実現できるよう努めている。自分から要望の言えない方は、行動や表情で気を付け、本人の意向の把握に努め、実現に向けて話し合いを行っている。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様の方から今までの生活歴を伺い、基本情報として全職員が共有している。新たに発見する情報もある為、カンファレンスで話し合った事を申し送りして周知対応している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル・排泄・水分量・日々の状態を観察し、記録に残し状態変化の時や気付いたことがあれば、申し送り時に話し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様がより良い生活が出来るように、個々の合わせた課題やケアのあり方について必要な事を全職員で話し合い、現状に合わせた介護計画を作成している。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活を記録し、その時々気づきや工夫など、職員同士で情報を共有しながら、実践への反映に繋がっている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や散歩先で地域住民との交流をする事で、豊かな気持ちで暮らしを楽しむ事が出来るよう支援に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望を考慮し、今までの医療機関を継続し、定期的な受診を行い、急変時にも対応して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の方がいない為、日ごろから入居者様の状態をはじめ、変化に気づき、何かあればかかりつけ医の看護師に連絡し指示を受け、早期に適切な処置や受診が出来るように努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、安心して治療出来るよう、ご家族様や病院関係者と情報交換を行い、早期に退院出来るように、また退院後の生活の安定を図りながら常に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、対応が困難である事を入所時にご家族様へ説明しているの、医療行為が出た時看取りになった時は、必要に応じて他施設の紹介や申し込みについて提案支援している。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し日頃から急変事故時の対応について、話し合い、職員一人一人が意識している。緊急連絡網での連絡も職員が速やかに行えるよう、スタッフルームに掲示している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。避難する体制を職員と確認し身につけている。近隣住民への協力もお願いし、参加して頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解し、不快になる言葉掛けやプライバシーを損なわないように、否定的な言葉掛けはせず、さりげない言葉掛けや対応で人格を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の気持ちや思いを会話の中から引き出したり、希望を自分から言わない方は、表情を見て声を掛ける等本人が自己決定出来るような生活支援心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはだいたい決まっていますが、職員本位ではなく、入居者様がやりたいことや、その時の本人の気持ちを尊重し、個別対応も重視している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから衣服への着替え、洗面、整容、顔にクリームを塗り、おしゃれ等自分で出来るところはして頂き、出来ないところはお手伝いをして支援を行っている。2か月に1回、理髪店が来てくれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を提供し、季節感を楽しんで頂き、美味しく食事が出来るように支援している。また、行事食や誕生会では本人に食べたい物を聞いて、作ったり、食べる事の楽しさを感じて頂いている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合った食事形態で提供し、苦手な食べ物の時は、代替えのおかずを提供し、食事や水分摂取は、毎日記録に残し栄養のバランスを考えながら支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きの声掛けを行い、一人一人力量に応じて介助も行い、夕食後には入れ歯洗浄剤で洗浄を行い、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を一人一人の排泄パターンを知り、そのかたに合わせた声掛けや介助を行い、自尊心、を傷つけないように配慮して支援を行っている。		
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日を記録し、水分補給を記録し、水分補給をこまめに行い、朝食時にはヨーグルト・牛乳・豆乳飲用して頂き自然排便に努めている。便秘傾向の方には主治医と相談し下剤の服用で定期的に排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を目安としているが、一人一人の体調や希望に応じて入浴している。入浴が出来ない時は、その時の状況、状態に応じて個々にあった支援を心掛けている。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後から就寝までの時間は一人一人パターンに合わせ、その日の様子を見て、就寝介助を行っている。眠れない方や夜間起きてくる方には思いを伺い、眠れるまで対応している。起床時も本人自ら起きてくるので休んで頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方内容の説明書をファイルに綴り、薬の作用や副作用等いつでも見れるようにし、変更時にも確認出来るように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から出来る力を活用し、食事の準備・後片付け・洗濯物たたみ等役割が出来るように支援している。外気浴・散歩等気分転換も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に応じホーム周辺の散歩・お花見・紅葉ドライブ等行っているが、今まで行っていた地域のイベントの参加がコロナの関係でできていない。コロナが落ち着いたらまた参加したい。		
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が多いため、現在は事務で現金出納帳の管理をしており、買い物時や本人の希望で購入品があれば自由に買い物ができるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年2回絵手紙を作成し、ご家族様の方へ送ったり、ご家族の方からも手紙が届いたり大切にしている。贈り物が届いた時などは電話で話しができるように支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を調節し、快適に過ごせるようにしている。皆さんと一緒に過ごすホールや壁にはディスプレイを作り、季節感を感じて頂けるように工夫している。外を見ると保育園の子供達が遊んでいる様子を見たり、畑仕事をしている姿を見たりと楽しめる所となっている。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はほとんど一緒にホールで過ごす事が多いが、時々外の景色が見える廊下ソファで仲の良い方と談笑したり、一人になりたい時など、気分転換が図れるように安心して生活出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活習慣を尊重し、使い慣れた寝具・家具等を持ってきて頂き、安心して生活出来るように支援している。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を大切に、トイレや居室へ印をつけ、入居者様が安心して、安全に、移動出来るように心掛けている。また、日時が分かるように目の付く所に設置し、自立した生活が出来るように環境作りを行っている。		